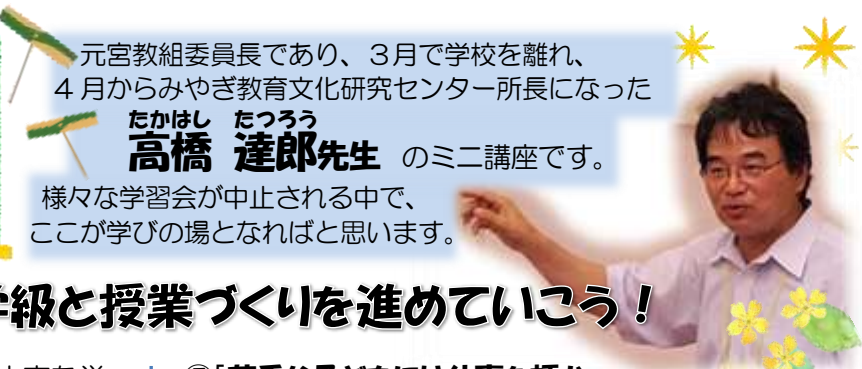


バトンゾーン

先輩から後輩へ②



元宮教組委員長であり、3月で学校を離れ、4月からみやぎ教育文化研究センター所長になった
たかはし たつろう
高橋 達郎先生 のミニ講座です。
 様々な学習会が中止される中で、
 ここが学びの場となればと思います。

「合意」を作って、学級と授業づくりを進めていこう！

学校が再開して1か月。「3密」防止で、大変な学校生活。子どもたちも様々なストレスを抱えています。そんな中での授業と学校生活、様々な課題が見えてきているでしょう。

①「量から質へ、粘りと執念において勝つ」

「学級の歴史づくり」1日に何か一つは、良かったことを短冊に書いて教室に掲示していく。最初は教師から、そして子どもと教師、最後には子どもたちからの意見で。今は数をたくさん蓄積する。荒れる11月か2月にその成果は、きっと現れますよ。

②「誠実に対応する」

新学期、教師に対する訴え、子どもからの話しかけがあったら、たとえ様々な仕事があっても、それを横に置いて、誠実に対応し行動しましょう。

③「書かない子に書く」

子どもたちに日記は書かせていますか？ 書かない子にこそ赤ペンを。内容は、その子に対する評価ではなく、教師の思いを綴る。いつかきっと、教師に心を開いてきますよ。粘り強く、続けて。

④「まなざしで身に語りかける」

教師の言葉が子どもたちに届いていると感じていますか？ 教師の「まなざし」に子どもたちは敏感です。子どもの生活を思い心配するあたたまなざしで誠実に語り掛けていきましょう。

⑤「苦手な子どもには仕事を頼む」

課題を持った子、自分と合わない子は、必ずいます。そんな時は、その子に様々な仕事を頼みます。拒否されたら自分でやります。その子が渋々でもやってくれたら「助かった。ありがとう！」その子に感謝できます。頼むことは信頼の証。

⑥「合意を作って進む」

生活も授業も問題があったらチャンス！全員を集めてクラス会議。子どもたちや教師の意見を出し合って合意でルールを作り、紙に書いて教室掲示。今、子どもの声を聴き、合意作りが大切！

⑦「教師の笑顔は最大の教育力」

教師の笑顔は、「それでいいんだよ」という肯定感と安心感、明るい未来と希望を子どもたちにもたらします。それが子どもたちに勇気と挑戦を育てていきます。

⑧「否定の中に肯定を見る」

①から⑦までのことで大切なことは、クラスや個人が否定的な状況でもその中から肯定的な芽を見出し、うれしがり、励ましていく、教師の思いを伝えていくことです。3月、子どもたちはきっと先生との別れを惜しむでしょう。

もっと実践が知りたい！
 という方はここに連絡を！



みやぎ教育文化
 研究センター
 HP

7月号は「分からないという子は王様だ」授業づくりのポイント

TEL:022-301-2403

インタビュー 私の「くみあい」 8

「組合って何ですか？」とたずねると、人によってそれぞれ違う答えが返ってきます。組合員のみなさんそれぞれが思う“組合ってこんな存在”を青年部長近藤がインタビュー！



第八回の今回は、

石巻市立 湊小
 あべ まさあき
安部 正晃 先生

にお話を伺いました。

Q 先生にとって組合って何ですか？

私が組合に入ったきっかけは恩師に声を掛けてもらったことでした。始めは、実際にどのようなことをするかも十分に分かっておらず、入ることに積極的ではありませんでした。

しかし、働いていく際の労働条件だったり、様々な場面で納得して仕事をしていくために重要なことを話せる場だということを知り、加入を決めました。学習会や、講座等で多くの知識を得られたり、他の学校の先生たちと交流を深められるのも組合の素晴らしいところだと思います。

今はなかなか集まることが難しく、学習会等の参加が難しい中ですが、その中でも組合の魅力が多くの人に伝わり、さらにみんなで協力して様々な活動に取り組みしていければと思います。

協力ありがとうございました。